

# 『大型直売施設を中心とした地産地消の推進』

< 「生産者の顔が見える」新鮮で安心できる野菜の供給 >

【産地名 秦野市 (神奈川県)】



秦野のねぎ畑

対象品目名	ねぎ
産地の名称	秦野市
作付面積	15ha
主要作付品種	冬扇2号、長悦
作付農家戸数	950戸
生産量	481t/年間
出荷(販売)量	384t/年間
販売額	
出荷(販売)先	はだのじばさんず ジャスコ

## 1. 産地の概要と特徴及び課題

秦野市は、県央西部に位置し、丹沢山系がつくりだす美しい緑豊かな自然環境に恵まれた首都圏近郊都市です。市の北部には神奈川県屋根といわれる丹沢山麓が連なり、南部には渋沢丘陵と呼ばれる大地が東西に走り県下唯一の盆地です。気候は太平洋岸気候を示し、冬は温度の低い晴天の日が続き、夏は高温多雨となりますが、平均的にみて気候は温暖です。年間平均気温は15.5、降雨量は1837mmで県下では比較的多い方です。

農業はその位置的環境から傾斜畑が多いため、規模拡大や生産コストの低減が図りにくく、また、出荷ロットが小さいため市場での評価が上がりにくいなど、現在の生産流通体系の中で厳しい経営を強いられています。

一方、首都圏のベッドタウンとしての秦野市には消費者も多く、消費者からは、最近、特に「生産者の顔が見える」新鮮で安心できる野菜が求められてきています。

そこで、中核的農家を中心に、中小規模農家も含めた新しい生産流通体系や核となる大型直売施設の整備により、地元で生産したものを地元で消費する地産地消を推進するため、平成14年3月に「ねぎ産地改革計画」、平成15年2月に「たまねぎ、トマト、ピーマン、なす、キャベツ産地改革計画」を策定し、産地の構造改革に取り組んでいます。

### 対象品目の作型(生育ステージ)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
作業	(春まき)												
	-	—————							x	—	x	—	-
	定植期								穫(最盛)期			播種期	
	(秋まき)												
							播種期						
	—	-	—————			x	-	x					
	定植期					収穫(最盛)期							

## 2. 産地改革計画の概要

策定対象品目名	ねぎ	該町 当村 市名	秦野市
策定年月	平成14年3月15日		
策定主体名	秦野市農業協同組合		

### (1) 計画の全体概要(要旨)

秦野市のねぎは13ha、454tと生産量が少ないため、低コスト化を図ることには限界がありますが、小規模故に消費者ニーズに対応した生産を行いやすく、また消費地でもあるため付加価値をつけた生産物が高く評価されています。そのため地産地消を基本とし産物の高付加価値化を図りながら、それらの生産物が高い評価を受けることができるように、現在行っている量販店との契約の拡大を図り、また流通経費の削減等低コスト化も進めながら産地の振興を図ります。

目標達成のための数値目標として

- 1) 減農薬栽培への取り組み(現状10人・1haから50人・5haへ)
- 2) 優良品種の導入(現状1haから3haへ)
- 3) 簡易移植機の導入による定植作業時間の短縮(現状89hr/10aから19hr/10aへ)
- 4) 流通時間の短縮による新鮮な野菜の提供(現状70tから315tへ)
- 5) 生産情報を付加した安全・安心な野菜の提供(現状0tから315tへ)

生産者の意向調査等から315tを輸入野菜と競合しない泥ねぎ出荷、優良品種の導入、減農薬化による安全な農産物の生産、直売場での直接販売により流通時間を短縮した新鮮な農産物の販売等の高品質化を図ることとしました。このための販売先としては75tを量販店向けとする他、直売所での販売(240t)を中心に、地元品として有利な販売ができるような青果商・飲食店等の顧客の開拓も図る予定です。

目標実現後の構造改革の姿として、中核的な農家と中小規模農家が一体となって多様な生産販売体系(市場出荷、契約出荷、契約取引、共同直売等)を展開する地産地消型産地となり、「秦野の野菜」として、輸入農産物に負けない魅力ある地場産野菜のブランドを確立していきます。

### (2) 具体的な目標

高付加価値化タイプ                      消費者ニーズに対応した、安全な農産物の出荷  
生産量454t(13ha)のうちの315t

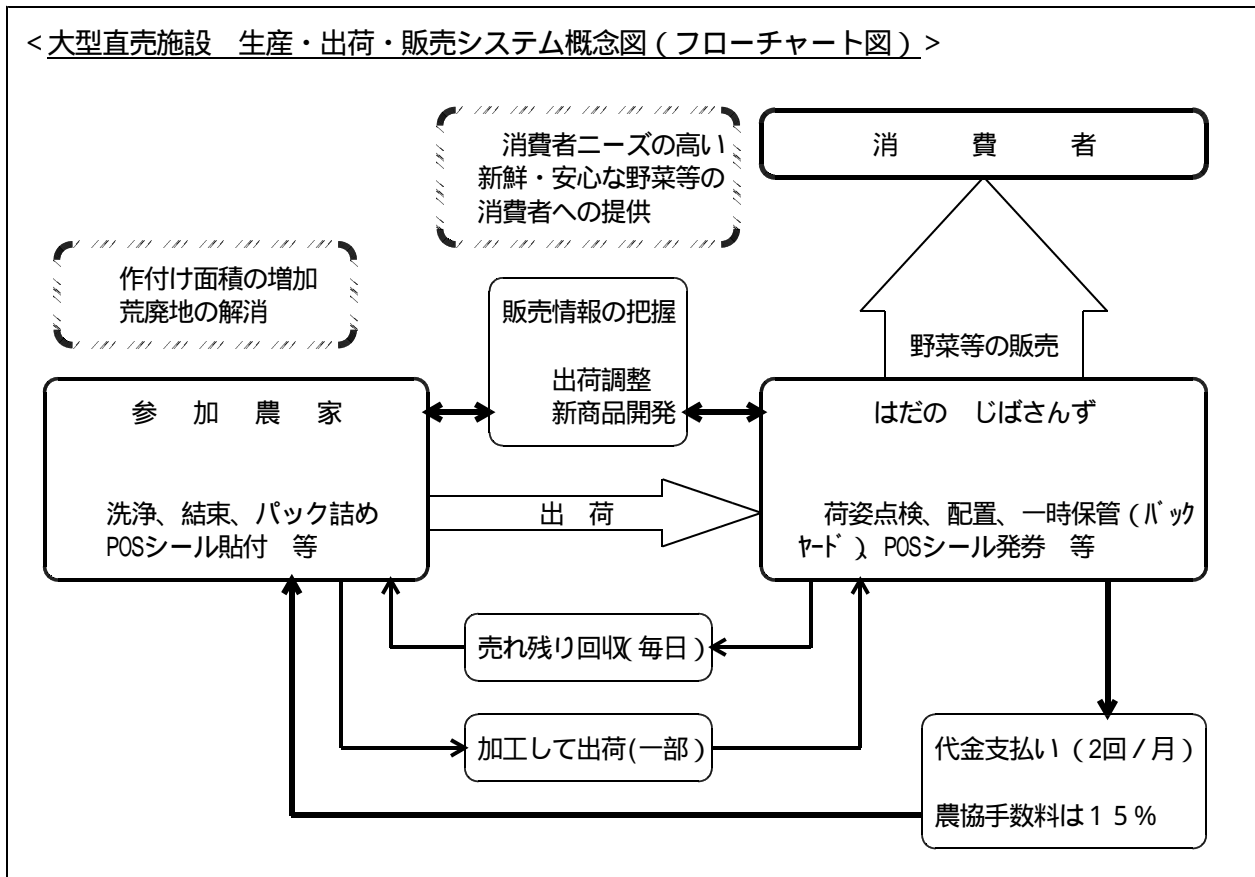
## 3. 産地改革計画の実行状況とその成果

産地改革への取組を進める中で、秦野市農協は、国庫事業を活用して、野菜等の直売施設「じばさんず」を整備しました。計画当初には、520名であった出荷登録者も、平成16年には約720名に増加してきています。

この直売施設は、正月の三日間を除く毎日午前9時から午後6時まで営業しており、平成15年の実績としては、月平均の来客数が約20,000人、月平均の販売額が約2,700万円となっています。

従来、市場出荷を中心に一部で契約取引に取り組んでいた中核的農家や中小規模農家に、直売という新たな販路を提供することで、生産販売体系の多様化が図られ、特に今まで販路がなかった小規模な農家(自給的農家)に販売の場が提供されたことにより、生産意欲が高まっています。

構造改革後の生産・出荷・販売システム概念図



産地改革に係る補助事業等の実施状況（平成14年度以降）

国庫補助事業

年度	事業名	事業主体名	事業内容	事業費 (百万円)	国庫補助金 (百万円)
14	輸入急増農産物対応特別対策事業	秦野市農業協同組合	地産地消流通施設整備	92.286	42.081
14			地産地消システムの構築	0.537	0.250
			(合計)	92.823	42.331
15			地産地消システムの構築	0.575	0.250
16			地産地消システムの構築	1.155	0.550

4. 今後の課題とその取組方向

秦野市は比較的生産者の高齢化が進んでおり、市場出荷が困難な生産者が増加していることから、大型直売所による販路の確保は生産意欲の向上に効果的であったが、今後は更に高齢化が進むことが懸念されます。このため、多様な担い手の育成など、担い手の確保対策が必要となっています。

また、丹沢山系が近いことなどから有害鳥獣の被害も多く、耕作放棄される農地も多ありますが、市民などのボランティアによる農地の復元も行われています。今後も引き続き、有害鳥獣対策や耕作放棄地対策を推進する必要があります。

また、産地改革計画に掲げた目標の実現をめざして、生産者個々のさらなる意識改革を行い、減農薬栽培による環境保全型農業などの推進を図り、直売や契約販売などの有利販売をよって、生産意欲の向上を図ります。

## 産地改革・取組フォト



大型直売施設「じばさんず」



簡易移植機による定植



出荷調整姿のねぎ



消費者で賑わう「じばさんず」

### < 県・問い合わせ先 >

神奈川県湘南地区農政事務所地域農政推進課

担当係名(氏名) 石森 裕康

住所: 平塚市西八幡1-3-1 平塚合同庁舎内

TEL: 0463-22-2711(代)

### < 農協・問い合わせ先 >

秦野市農協営農経済部営農課

担当係名(氏名) 渋谷 清

住所: 秦野市平沢477番地

TEL: 0463-81-7717